

# MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2017年1月★第120号

## 終わりになき長い道のり

理事長 長谷川 公一

新年号には「希望」のメッセージが期待されていますが、この数年、年々、希望を語ることの難しさを痛感せずにはられません。昨年新年号に「世界はますます苦悩を深め、亀裂と分断を深めていくようにも思われます」と記しましたが、残念ながら、この見通しは的中しました。イギリスの国民投票でのEU脱退の決定、アメリカ大統領選挙でのトランプ候補の勝利など、衝撃的な出来事が続いた2016年でした。

希望や夢を語ることが難しい時代です。「出口なし」の閉塞感や鬱屈感が「日本を、取り戻す。」とか「Make America Great Again」のような復古的なスローガンの人気を高めています。本当に昔が良かったのか、というように検証はなされぬまま、反知性主義的なムードが横溢しています。

こういう時代状況の中で、「環境問題」の本当の意義をどう語るのか、という難題に私たちは直面しています。現代では情報はすぐに消費され、たちまち陳腐化していきます。学生達も「環境問題知ってるよ」、「温暖化問題知ってるよ」という表面的な既視感のもとで、スルーしているような気がしてなりません。他人事として、やり過ごされてしまうのです。

このような既視感を突き破って、心を揺さぶるように環境問題を語ることの難しさ。危機感を強調しすぎることは「狼少年」につながりかねません。安直に Win-Win を語り、「楽しさ」だけを語ることもためらわれます。

「自由への長い道のりを歩いてきた。つまずかないように注意してきたつもりだが、つまずいてしまったこともある。けれど、大きな山を登り切ったあとわかったことは、

もっとたくさんの登るべき山があるということだ。周りの景色があまりにもすばらしくて一休みしたこともある。来し方をふりかえって一休みしたこともある。しかし休めるのはほんのつかのまだ。自由には責任がともなうからだ。ぐずぐずしているわけにはいかない。私の長い道のりには終わりが無いのだから。」

南アフリカ共和国のマンデラ元大統領の自伝『自由への長い道』（1995年）の末尾の言葉です（拙訳）。結局、理想に向かったの、終わりのない長い道のりを、一歩一歩地道に歩いていくしかないようです。

このような困難な時代にこそ、あなたの力が、あなたの支えが必要です。本年も、引き続きご支援をお願いいたします。

(2016年12月2日)



2016年6月カナダ・バンフの国際会議にて、友人の環境社会学者と

**MELONとは** 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

## MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
  - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
  - ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
  - 年5回の情報紙をお届けします。
  - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

## Index

- P1 新年のご挨拶「終わりになき長い道のり」
- P2 秋深まる仙台で「オーガニック・ウィーク・センダイ2016」を実施しました♪  
／「秋の森で遊ぼう！～『こ～ぶの森向大倉山』で自然観察&山の仕事体験会！～」
- P3 仙臺農塾～大人の食育プロジェクト～
- P4 登米総合産業高校で環境に関する授業を行いました！  
／かんきょう見聞記-江戸のリサイクル-
- P5 協同組合からのお知らせ  
／目指せ100人！環境リレートーク 浦井彰さん
- P6 ストップ温暖化センターみやぎ通信
- P7 ストップ温暖化センターみやぎ通信  
／MELONcafe プチ講座
- P8 トピックス/イベント一覧/編集後記

## 秋深まる仙台で 「オーガニック・ウィーク・センダイ2016」を実施しました♪

実施期間：10月26日（水）～11月6日（日）  
※期間外のイベントもあり  
開催イベント、セミナー：17回 ※WEBで掲載したもの  
参加者：約800名 ※把握しているイベントでの総計



社の都仙台をイメージした、木がシンボルのロゴが目印です♪

新たな取り組みとして「オーガニック・ウィーク・センダイ2016」という、有機食品をより多くの人に知ってもらうことを目的に、有機農業やオーガニックなライフスタイルなどを呼びかけて宮城県内でオーガニックを盛り上げていこう！という広報キャンペーンを実施しました。

MELONを含む実行委員会4団体が企画したセミナー、講演会はもちろん、店舗内でのオーガニック特設ブースの設置など、協力してくださった他の団体も、多種多様なイベントを実施して一緒に盛り上げてくれました。食部会では若手有機農家が企画した「農家のオーガニックマーケット」へ出展し、ネオニコチノイド系農薬につい

てまとめた資料を掲示して、来場者のみなさんと交流しました。効果を理解して使っている消費者や危険性を感じて使わない方法を模索している生産者など、さまざまな立場の方から意見を聞きました。今後も継続してネオニコチノイド系農薬の効果・効能、その影響などを伝えていかなければならないと、強く感じました。

初の企画でしたが、さまざまな団体や個人の方に協力をいただきました。ぜひ、今後も継続してオーガニックを普及していきたい取り組みにしていきたいと思います。



若手有機農家の野菜も販売されていましたよ

### <協賛>

イオンリテール株式会社東北カンパニー

### <名義後援>

株式会社河北新報社、東北農政局、株式会社東日本放送、宮城県、みやぎ生活協同組合、株式会社宮城テレビ放送

### <オーガニックウィーク実行委員会>

朝市・タ市ネットワーク、特定非営利活動法人環境保全米ネットワーク、せんだい食農交流ネットワーク、MELON

## 東京海上日動GreenGiftプロジェクト

### 「秋の森で遊ぼう!～『こ～びの森向大倉山』で自然観察&山の仕事体験会!～」

日程：9月24日（土）  
活動場所：こ～びの森向大倉山（仙台市青葉区大倉高畑）  
参加者：90名

みやぎ生協が宮城の自然と緑を豊かにする活動のために設立した「COOP緑の基金」。この基金を活用して、つくり育ててきた森が「こ～びの森」です。

木や植物の種類、それらを食す熊や猪などの生態について講師に教えてもらいながら森を観察しました。間伐の見学では、チェーンソーで倒した杉が「ドン」と大きな音を立てて倒れた際には参加者もびっくり。間伐して森林に日光を入れることにより残された杉の生長を促すこと、その作業を森林全体に行うことで、雨による土砂崩れを防ぐことができることなどを学びました。



迫力ある間伐作業を見学

午後のクラフト作りでは間伐材や木の実でアニマルクラフト、アクセサリ置き、名札、竹笛など、大人も夢中になって作りました。間伐材は使ってこそ森林保全につながります。参加者は自宅に帰ってからも

作品を見るたびに森林について身近に感じることができると思います。

参加者からは「また参加したい」「観察、薪割り体験、クラフト作りと1日で盛りだく

さんの内容を体験できてよかった。」との声がありました。活動に関わることで森林に対して愛着を持ち、森林を保全する意義を感じてくれたようです。



自然の大切さを学べました!

主催：みやぎ生活協同組合、MELON  
共催：特定非営利活動法人日本NPOセンター  
協力：東北環境パートナーシップオフィス（EPO東北）  
協賛：東京海上日動火災保険株式会社  
後援：環境省、宮城県、仙台市

### GreenGiftプロジェクトとは

東京海上日動火災保険株式会社が、ご契約時にお客様に「ご契約のしおり(約款)」等をホームページで閲覧する方法を選択いただくことにより、紙資源の使用量削減額の一部で国内外の環境保護活動をサポートするものです。

2013年より各地域の環境NPOと協力して、主に子どもたちとそのご家族を対象とした環境保護に関する体験活動を行っています。

環境保護に関する体験活動を通じて、子どもたちが身近なところから環境について考えるきっかけを持つことによって、持続可能な社会が実現することを目指しています。

# 仙臺農塾

## 大人の食育プロジェクト

第1回「肥料を使わずに育つ?! 自然農法の世界」

日時：9月27日(火) 19:00~21:00

会場：Green Planet Cafe

(大町2-4-1 グランドソレイユ大町2階)

ゲスト：榊原健太朗さん

(公益財団法人自然農法国際研究開発センター  
普及部技術普及課長)

参加者：19名

第3回「宮城の農産物を語ろう

～在来作物から最近の農産物事情まで～

日時：11月30日(水) 19:00~21:00

会場：TRATTORIA CUCINA L'ORANGERIE

(榴岡4丁目6-28ホテルレオパレス仙台2階)

ゲスト：川島洋子さん

(野菜ソムリエ・フードコーディネーター)

参加者：19名

※第2回「自然に寄り添うお米作り」は、諸般の事情により中止しました。

仙臺農塾 Vol.5のスタートとなる1回目は、自然農法の普及歴が20年以上にも及ぶ榊原健太朗さんをゲストにお招きしました。この日のために、カフェのオーナー



ナチュラルな雰囲気が漂う店内で、じっくりとお話しを伺いました

である高橋市雄さんが知り合いの有機農家から直接調達したという食材をもとに色とりどりの料理を用意してもらいながら、「有機農法」と「自然農法」についてその特長や栽培方法などを解説していただきました。

国の有機農業推進法とは別に、榊原さんたちが目指す方向とは「健康な土を育てて、健康な作物を作る」ことだと言います。「土が根を育てる」という発想に基づき、過度に土を掘り起こさず、小まめに除草するというのもしないそうです。

自然農法によって微生物の増殖を促し、分解物が肥料となり、結果として病気を防ぎながら作物



当日、テーブルに並んだポテトサラダ豆乳マヨ仕立て、野菜出汁スープ、コールドプレスジュース

の収量増加に貢献するというのは、環境にもやさしく大変画期的なものと言えます。そもそも豊かな土壌を育てるために農薬や肥料をなるべく投与せず微生物を活用するとの発想自体、目から鱗が落ちるようで大変新鮮なものでした。生産者に寄り添って指導する榊原さんたちの奮闘に思いを致しながら、安全な地域農産物を購入する「支え手」として、ささやかながら応援していきたいという思いをより一層強くした講座となりました。

「伝統野菜は、その土地の文化に根差した、その土地でしか取れない特有のもの。ぜひ、その土地に行って味



川島さんと、料理を担当してくださった瀬戸シェフが、ホッケを挟んでツーショット

わってもらいたい。」と話していたのは、第3回ゲストの川島洋子さんです。在来作物や伝統野菜、今流行りの西洋野菜など、宮城県内の農産物事情について広くお話しを伺いました。

宮城県内でも、東西南北それぞれの地域で気候や土壌などの環境が異なります。その土地に適した作物や農法はるか昔から試行錯誤され、その歩みの中で地域独自の食文化が育まれてきました。そうして生まれた伝統野菜や在来作物が現在脚光を浴び、他の地域でも生産されるようになっていますが、それは必ずしも良いことだとは言えないのかもしれませんが、本来、地域ならではの食文化と結びついたものであるにも関わらず、作物によっては需要の引き合いが強いため、産地は「混沌」とした状況に置かれていると言います。育てる環境が違えば野菜の特徴や味は変化します。「他の産地と競争するのではなく、その土地



雄勝石のプレート上に彩られた、宮城県産の野菜たち

ならではの栽培を地道に続けていってほしい」と川島さんは訴えています。ヤーコン、アサツキ、里芋など、宮城県内でも産地限定のバラエティ豊かな「地のもの」がいくつも取り上げられましたが、川島さんが話すように直接足を運んで、その野菜を育ててきた地域の文化を知り、その土地で食することに意味があるのではないのでしょうか。

## 登米総合産業高校で環境に関する授業を行いました！

日 時：10月21日（金）14：30～15：20  
 場 所：登米総合産業高校 講義室  
 （登米市中田町上沼北桜場223番地1）  
 講 師：村松淳司さん  
 （東北大学多元物質科学研究所教授・MELON 理事）  
 参加者：212名（2年生全員が受講）

この授業は株式会社ウジエスーパーから寄付いただいたレジ袋販売収益寄付金により開催しました。登米総合



村松理事が生徒に質問しながら講義

産業高校にて環境に関するカリキュラムを検討していた際、高校の役員でもある株式会社ウジエスーパーがMELONへ相談したことがきっかけになって実現しました。

震災時ライフラインを喪失した経験を踏まえ

て、今後は1つのエネルギーに頼るのではなく、太陽光発電、LPガス、薪などエネルギー源を複数所有していると、ライフラインが途絶えても乗り越えることができるなど、村松理事よりお話を伺



大きな講義室でたくさんの生徒が熱心に聞いていました

いました。特に登米市は個々の家庭においてプロパンガスの普及率が高いので、エネファームなどと合わせて設置すると発電と給湯もでき、大変有効です。LED電球に取り換えたり、古い冷蔵庫やエアコンを買い替えるといった省エネの提案など、生徒にとって生活のエネルギーを考える良いきっかけになりました。

生徒が将来住宅を建てたりリフォームする際に参考にしてもらい、1戸でも災害に強く地球環境に優しい住宅が増えることを期待しています。



### 江戸のリサイクル

落語篇③

桂小文治「紙屑屋」

石垣政裕（MELON 理事）

歌舞伎と落語はその演目を互いに演じ合っているところがあります。例えば有名な三遊亭圓朝作の「牡丹灯籠」や「真景累ヶ淵」「文七元結」などは落語の演目が歌舞伎に取り上げられた場合で、「生きている小平次」や「義経千本桜」などは歌舞伎の演目が落語の中に取り入れられています（『演劇界』第66巻10号、2008年）。歌舞伎鑑賞はそれなりにお金がかかることもあり、落語の方が小さい小屋（寄席）で安価に観られます。落語の中に傍系として、例えば話の中で、芝居狂いの若旦那などが歌舞伎の演目を演じたりすれば、何か有名な歌舞伎に触れたような気もするでしょう。

落語仮名手本忠臣蔵（日本クラウン、1997年）の「三段目」、桂小文治「紙屑屋」（1961年12月7日NHK収録）を聞いてみましょう。江戸元禄年間に起きた有名な赤穂藩の仇討ち事件を（時の幕府に

とがめられないように）登場人物の名前や時代背景を変え、全11段にして全義太夫で語られたのですが、歌舞伎や映画で現在まで上演し続けられています。1964年に放映された、NHKの大河ドラマの大石内蔵助を演じた長谷川一夫にうっとりした方もあるかもしれませんね。私は、ませていたのか宇野重吉が演じた蜘蛛の陣十郎を好きでしたが。

さて、「三段目『紙屑屋』」は必ずしも「忠臣蔵」を題材にしたものではありません。居候の若旦那が放蕩のあげく、やっかいになっている旦那の元で、集めた紙を選び分ける紙屑屋の修行をしています。その中に手紙や義太夫の本が出てきて、若旦那がそれに熱中するというお話です。義太夫の内容が少し関係があるという説もありますが、聞いている私たちには分かりません。手紙も遠からずということで「仮名手本忠臣蔵」の演目を『かすった』ようなはなしなのです。

しかし、裏が使える紙と使えない紙、ポロ布、ミカンの皮（医者に売るのだそうです）などあらゆるごみを選び分ける姿が描かれています。以前に仙台市のリサイクルセンターを見学したことがありましたが、回収した瓶や缶、紙類の分別をいつも思い出します。リサイクルは江戸時代からの課題だったのですが、今の時代、私たちはちゃんとリサイクルができていくのか、この落語を聞く度に思います。

## 各協同組合からのお知らせ

MELONの協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

～みやぎ生活協同組合～

### フェアトレード・カフェ開催！

「フェアトレード(公正な貿易)」は、お買い物のできる身近な国際協力です。

みやぎ生協では店舗や共同購入でフェアトレード商品をご案内していますが、より多くの方にフェアトレードをお知らせし、商品に触れていただくための『カフェ』を開催します。人気の衣料品・アクセサリー・雑貨などのフェアトレード商品を多数展示。コーヒー・紅茶・チョコレートもお楽しみいただけます。どなたでもお気軽にご参加ください。終了後、展示商品を定価にて販売します(現金のみの取り扱いになります)。

日 時：2月25日(土) 10:30～12:30

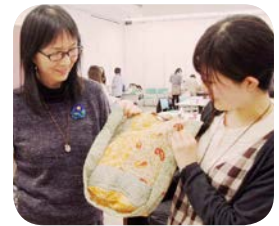
会 場：みやぎ生協文化会館ウィズ2階会議室1(仙台市泉区八乙女4-2-2)

参加費：無料

託 児：無料(1歳児～未就学児まで・事前申し込み必要)

事前申込：住所・名前・電話番号を、ハガキ・FAX・Eメール等で2月17日(金)までに下記へお申し込みください(託児希望者も同様)

申込み先 みやぎ生協生活文化部  
〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2  
TEL: 022-218-3880 FAX: 022-218-3663 Email: sn.mkankyok@todock.jp



商品を手にとり  
ご覧いただけます



## 目指せ100人！ 環境リレートーク



第63人目の執筆者

浦井 彰さん

(所属：認定NPO法人 環境エネルギー政策研究所 (ISEP)・エネシフみやぎ)

皆さんこんにちは。このリレートークで以前に紹介されている「エネシフみやぎ」の代表として活動していますが、仕事としても認定NPO法人環境エネルギー政策研究所のメンバーとして、東北各地で再生可能エネルギーの普及活動や事業化支援活動をしています。

ところでアメリカインディアンのイロコイ族をご存知でしょうか。彼らには「どんなことも7世代先まで考えて決めなくてはならない」という教えがあるそうです。まさに私たちが使っているエネルギーについて何を大切にすべきかを考えなければならないかを、ピタッと言い当ててくれる言葉です。私達の子どもや孫の世代に再生可能エネルギーの社会を作る

ことは、私たち世代の役目ではないかと思って活動しています。それからもう一つ大事なこととして、再生可能エネルギーは、地域が自らの事業として手がけることができる分散小規模事業が可能なおことです。丸森町の筆甫で地域住民の方々と「ひっぽ電力株式会社」を立ち上げました。小さな事業からですが、希望のある地域事業を作ることは本当に夢のあることです。こうした地域での再生可能エネルギーの事業化や活用に興味のある方がいらっしゃればぜひご連絡ください！

<連絡先>

メールアドレス：urai\_akira@isep.or.jp

所属：認定NPO法人 環境エネルギー政策研究所(ISEP)

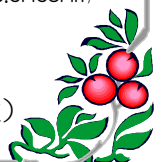
<http://www.isep.or.jp>

エネシフみやぎ

<https://www.facebook.com/miyagi.de.eneshif/>

…次号執筆者紹介…

金上 孝さん(ひっぽ電力株式会社)



## ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.75

### 県を超えた熱い交流～宮城・山形・青森による地球温暖化防止活動推進員研修会～

日 時：11月26日（土）13：30～16：30  
 会 場：仙台国際センター展示棟  
 参加者：32名（宮城・山形・青森各県の推進員）

平成28年度環境省「地域における地球温暖化防止活動促進事業」の一環として、推進員のネットワーク作りやスキルアップのための研修会を開催しました。



紙に書いた自己紹介を見せ合い交流

昨年引き続き、宮城県と山形県の推進員が一同に会した合同研修を実施。さらに今年は、青森県・青森市の推進員も見学として訪れ、ワークショップと一緒に参加しました。

アイスブレイクでは、二人一組になりお互いの出身地や趣味、推進員になったきっかけなどを伝えあい、ペアを変えながら交流しました。会話も弾み、初対面同士で緊張した空気だった会場も和やかな雰囲気になりました。

グループワークでは「推進員同士でやってみたいこと」をテーマに、グループに分かれ企画作りを行いました。「環境教育ツール作成」「小学校での環境教育」「イベント発表」など、出されたアイデアはさまざま。県は違っても同じ推進員同士、悩みややりたいことに共通点は多いようです。お互いの活動の情報交換もしながら、具体的な企画が出来上がりました。

温暖化防止の熱意あふれる方々との交流によって、互いに刺激を受けモチベーションアップにもつながりました。企画を各県に持ち帰り、実践に向け取り組みたいですね！



グループ毎に考えた企画を発表

### 私のおすすめ紹介します！「みやぎエコアクションカレンダー2017」完成

「温暖化を防ぎましょう！」と言われても「何をしたらよいか分からない」という方も多いのではないのでしょうか？そんなときに頼りになるのが地域で活動する推進員。

このたび推進員と協力し、家庭で取り組める温暖化対策をまとめた「みやぎエコアクションカレンダー2017」を作成しました。毎月1つ、推進員が選りすぐりの季節に合わせたおすすめのエコアクションを掲載しています。無料配



見開きA3サイズで壁掛けにぴったり♪

布していますので、ご希望の方はストップ温暖化センターみやぎまでお問合せください（数に限りがありますのでご希望に添えない場合もございます）。

#### 1月のおすすめは「ウォームシェアなボードゲームで遊ぼう♪」

スマホやテレビゲームも楽しいですが、たまにはエネルギーを使わないボードゲームで遊んでみましょう。ボードゲームは家族や仲間が一つの部屋に集まって、ワイワイ楽しめます。一つの部屋に集まるので冷暖房費の節約にもなり、親睦も深まりますよ。脳トレや学校の勉強、環境対策について学べるボードゲームもありますので、遊びながら勉強もできて一石二鳥！

推進員だより No.23

## 楽しく学ぼう♪

日時：12月11日（日）10：00～15：00  
会場：せんだいメディアテーク1F  
オープンスクエア  
内容：〇〇（まるまる）ボックス、アンケート等  
活動した推進員：井上正志さん、川村真貴さん、  
千葉さえ子さん

普段私たちが使っている商品に、環境に関するマークがついているのをご存知ですか？見たことはあるけれど何を意味するマークなのかわからない方も多いのではないのでしょうか。そんなマークを覚えてもらおうと、推進員と一緒に〇〇ボックスを使った環境マーククイズを考案し、「環境フォーラムせんだい2016」に出展しました！

クイズの答えに一喜一憂したり推進員の解説を聞いて感心したり、子どもから大人まで楽しく学べるブースになりました。



環境マークについて解説中♪

## うちエコ診断事業、 目標達成がもう目前！！

昨年の5月から目標200件に向かって、団体診断や市町村のイベントでの会場診断など30カ所以上をうちエコ診断士と共に駆け回り、うちエコ診断を実施してきました。そして、とうとう目標達成まであと少しというところまでやって来ました！

今後は会場診断のみの受付となります。窓口、訪問、団体診断をご希望の方は1/30までご連絡ください。

また、うちエコ診断の結果を基にしたパンフレットも作成中です。2月完成予定ですのでお楽しみに！



のほりも各地で大活躍！



## MELONcafe

■12月18日（日）13：30～15：00  
「リメイクキャンドル作り」

「MELONをcafeのように気軽に来られる場所にした」「環境に興味・関心のある方が気軽に集い、語り合える場を作りたい」そんな思いから誕生したMELONcafeプチ講座。12月はクリスマスを目前に、きれいなキャンドルを作りました。



仕上げのロウソクを注ぐ人も、見守る人も真剣な表情です

色を付け、ひし形状にした色とりどりのカラフルなキャンドル。それらを紙コップに詰め、仕上げにロウソクで固めます。今回は

「みやぎエコアクションカレンダー2017」の話題をきっかけに、自分が実践しているエコアクションを発表し合い、参加者同士で楽しく交流することができました。



そのエコアクション、自分も真似しよう！という発見がありました

リメイクキャンドル作りは、ごみとして捨てられるものをリユースするだけでなく、素敵な節電タイムをおすすめするためにも行っています。電気を消しキャンドルを灯してスローな時間を過ごしてみませんか。なにをするかは自分次第。家族と囲む食卓に灯しても、音楽をゆったり楽しんでも、あたたかな飲み物を味わいながらでも。すべての電気を使っただけはいけませんが、気をつけましょう。

リメイクキャンドルの出前講座も行っており、11月は鶴が丘や長町、12月は気仙沼にも行って来ました。楽しみながら環境のことに思いを馳せてもらえるような働きかけをこれからもがんばっていききたいと思います。

## 目指せ、家庭の暖房のCO<sub>2</sub>削減! 各行政へ薪・ペレット 利用促進のための要望書を提出

冬の寒さの厳しい宮城県で冬場に暖房を欠かすことはできませんが、薪やペレットを暖房の燃料にすることで二酸化炭素を削減することができます。薪・ペレットは燃焼した時に二酸化炭素を増やさない燃料です(カーボン・ニュートラル)。宮城県の家庭におけるCO<sub>2</sub>排出割合は「暖房」が2番目に多く、17.9%を占めます(2015年度うちエコ診断結果)。

MELONでは薪・ペレット利用促進により家庭のCO<sub>2</sub>排出量を削減するため、下記の市町村へ要望書を提出しました。



若生富谷市長に要望書を提出

提出先①：【宮城県環境生活部】 11月16日  
「平成29～30年度のスマートエネルギー住宅普及促進事業補助金」の1つとして、新たに2つの補助を加えてもらうことを要望  
・薪ストーブ、ペレットストーブ本体購入への補助  
・薪、ペレット購入の補助

提出先②：【富谷市】 12月16日  
平成29～30年度の事業として、下記の事業実施を要望  
・薪ストーブ、ペレットストーブ本体購入への補助  
・ペレット購入の補助

## MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

1/19(木)	「気候変動とこれからの私たちの暮らし」開催 自然エネルギー等普及プロジェクト 例会
1/21(土)	「北上川の『水の神さま』の伝承と文化にふれる バスツアー～ヨシ刈り体験もします～」開催 「MELON かんきょうかいぎ」開催
1/23(月)	みやぎ里山応援団 例会 エコ住宅部会 例会
1/28(土)	「薪ストーブ体験会～あったかライフをはじめ めるための基礎知識から実体験まで 子どもと楽しむ薪ストーブライフ in 向山こども園～」開催 水部会 例会
1/29(日)	「なっ得! 発見! みやぎ環境フォーラム」に ブース出展
2/7(火)	食部会 例会
2/9(木)	4R 推進部会 例会
2/11(土)	「COP22(マラケシュ会議) 報告会 in 仙台」開催
2/16(木)	MELONcafe 企画部 例会
2/18(土)	仙臺農塾 Vol.5 第4回 「はちみつができるまでを聞いてみよう」開催
3/4(土)	「木を使って森を元気に! ～第2回薪ストーブ・ ペレットストーブ展示・体験フェスタ～ (仮)」開催
3/25(土)	MELONcafe プチ講座 「米粉で簡単♪桜もち&イチゴ大福作り」開催
4/12(水)	仙臺農塾 Vol.5 第5回 「美味しいハムの選び方」開催

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

## 編集後記

■私事です結婚しました! 私生活は変わりましたが、MELONでの活動は変わりません。2017年も温暖化・水部会担当としてよろしくお願ひします。(岸改め、古林)

■漢字しりとり知っていますか? 私が「紙」と言ったら、あなたは「かみ」「シ」と読む漢字、もしくは「糸偏」の漢字を答えなければなりません。甥っ子が得意なこの遊び、頭の体操にぜひどうぞ。(菅原)

■新しい年が始まり、新しい目標をたてる時期。昨年目標は「英語を勉強する」でしたが、今年目標も「英語を勉強する」です(笑) それと一緒に今年はバラダ園芸もがんばりたい!(吉田)

### 〈会員状況〉

	654名
法人	67
任意団体	11
個人	576
2016年11月30日現在	

### ボランティアポイントカード制度 をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをする、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON協力商品券と交換できます。



### MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用いただけます。

発行元 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5713

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL http://www.melon.or.jp/melon/

落丁・乱丁の場合は、MELON事務局までご連絡ください。



この印刷物は、輸送マイルージ低減によるCO<sub>2</sub>削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。

※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。

